

津久井やまゆり園事件について その2

3月号に続き、6月号でも引き続きこの事件についての草の実関係者の感想、思い、意見の一部を掲載します。読者のみなさまのご意見も是非お聞かせください!

1、Nさん

植松容疑者の45人死傷事件は福祉関係者に関わらずに大きな衝撃でした。自分を解雇したことへの恨みと障害者への強いヘイトが動機とされているようです。

私は介護支援のたびに思うことは、私一人で利用者とその家族から信頼されて重い責任を背負わされていることは他の仕事に比較にならないほどに重いと常に感じています。このプレッシャー、ストレスは経験しなければわからないことです。

それに対する対価はとて低く、人助け、ボランティア、社会貢献などの意思が強くなければ続きません。

街で行きかう人、乗り物に同乗した人の利用者を見る目は様々です。珍しい人、邪魔な人、かわいそうな人など。

障害者を社会が隔離していた長い時代が終わり、これからたくさん人の理解が生まれることを期待しますが、まだまだ受け止められない人々が多くいることを知らされます。植松容疑者と同じに思っている人は少しはいると感じ、実行するかしないかの差だと思います。

植松容疑者を採用し教育した施設の責任は重いですが、本人には最大の厳罰で社会に知らせてほしいです。

2、Oさん

この事件を知った時は、大変驚きました。

犯人の発言や思想をニュースなどで聞くと強い憤りをおぼえます。このような考えを持ってしまった人がいることは何が原因かを考えるようになりました。

OB、OG会の際に、この事件を聞いたときにどう思ったかを話してもらおうと、「手帳を持っているのが怖くなった。」と話した人がいました。このような思いをもってしまった人がいることに怖さを感じ、被害が広がっていることを実感しました。

この事件や差別に関することを福祉に携わっていない人にも話をしていくとともに、福祉だけではなく、教育の場でもより多くの時間を使い関連する知識を学ぶ機会を増やすことが必要だと思っています。

また、障がいを持つ人がもともと暮らしていくはずの地域から離れ入所施設で暮らすのではなく、その地域の中で暮らし、多くの人と関わっていける環境を作っていくことが、今回の事件や差別、偏見をなくして行くことに欠かせないことだと思っています。

3、Pさん

私は楽しく、生きているんだよ～たくさんの感情もあるんだよ～うまく表せないだけで、皆のことも大好きだよ～。

変な人がいるなあと、思って見られても全然かまわないけど私は悪いことしないよ～。お母さんも、お父さんも、大好きだよ。

変な人は見かけだけでは、わからないけど、悪いことを平気でする人の方が、よっぽど変だよ。

私自身は自分が普通であたり前だと思っているから、周りにも迷惑をかけてしまうのだけど、生まれてきて、生きていて良かったと言えるのですよ。

好きなことができる時、おいしい物を食べる時、笑ったり、怒ったり泣いたり感情いっぱいあるのです。嬉しいなあとかイヤだな

あとか。だから、お願いします。二度とこんなひどいことを起こさないで下さい。(たぶんこう思っているだろう事を母が書きました)

4、Qさん

- ・知的障害施設の元職員であったこと
 - ・津久井やまゆり園の実情を知りつくしていること
 - ・犯行予告　・眠っている者の刺殺
- 凄惨な事件過ぎて人間の行為ではありません。

犯人を断罪して司法で罰することしかないのか？事件の発生原因はなんなのか、人なのか物なのか金なのか、犯人の生活環境だったのか、本人の性格だったのか…

「障がい者は生きている価値がない」とはどういうことか。

個人の誤った行動が起こした事件ではありますが、あまりにも大きな事件です。個人の参加によって再発防止に協力してまいります。

5、Rさん

他人が思いもよらないことを考え、実行する人がいます。ニュースを聞いた時私はそう思いました。

そんな人が世界からいなくなることはないと思います。だけど日々気を配り、思いやりをもって他人とふれあえば自分の周りでおこることは無い、そう信じたいと思います。

6、Sさん

あの凄惨な事件からもう7ヵ月たったのかと改めて思い新天地で立て直されるというTVや新聞などの報道を最後にほとんど聞かれなくなりました。19人も殺害され、その犯人が元職員だったこと「障がいは不幸で生きている価値がない」などのゆがんだ考え方、計画性、連行される車の中でのうすら笑いなど、どの場面を思い出しても胸が痛くなる不条理な出来事です。特に犯人がそこで働いていた職員だった事に衝撃を受け、「どうして」「何を思って働いていたのか」「どこで魂を売ってしまったのか」「働いていた時に本当に虐待はなかったのか」「他職員や私生活の人間関係は」などいろいろな疑問が浮かびます。

そしてそれらはまだ何も答えが見つかっていなく、私の中でも止まったまま。「裁判が始まれば何か報道されるのか」「精神鑑定で病名がつけば無罪になってしまうのだろうか」と思ってしまいます。また事件後も被害にあわれた家族も決まった方達が時々TVに出て話されていましたが、他の家族の声を聞くことはほとんどなく、改めて障がい者の家族の方の閉塞性、知られたくないという思いがあるように感じられました。

亡くなられた方達のご冥福を祈ると共に残された家族のつらく苦しい思いを忘れてはならない、時がたてば少しずつ薄れてしまう悲しい現実ではありますが、決してこのような大惨事があったことを忘れない、そして二度と起こしてはならないと強く思います。

金子みすゞさんの詩の一文に「みんな違ってみんないい」この言葉が日本中、世界中の人達が普通に暮らしていける世の中であることを日々願いながら、変わらぬ毎日に感謝しながら今自分にできることを少しずつ行動に移していけるように、と思っています。

7、Tさん

皆様同様、とても衝撃を受けました。恐しくて…いたましくて。

この事件を起した人間の心の中は想像を越えています。どんな命もかけがいのないもの…このあたり前だけ理想ともいえる考え方を努力して根付かせていかないと大変な世の中になっていく気がします。望んだ訳けではなく障害を持って生まれ、又生きる過

程で何らかの障害を持ってしまい結果社会的弱者となってしまったことに罪はありませんが、その弱者（高齢者も入るかも）に対して大きな援助の手が差しのべられているのも事実です。

その弱者に対して日々手助けして下さる方々の多大なご苦労、又、国（社会）のさまざまな負担もあります。それに対して批判的で不満を持っている人も少なからずいるのではないのでしょうか。様々な人がいますので。

私達お世話になっている立場から申し上げますと日々感謝、感謝の思いであります。弱者を支えていただいているいろいろな力と暖かい心ざしで私達も生かされていると思っております。

救いようのない思いになったこのようなことが二度と再び起きませんようにと願うばかりです。

8. Uさん

事件当日の朝は、テレビをみて大変ショックを受けました。と同時に、どうしてこのような事件が起きたのか疑問が沸きました。その後、事件だけではなく、事件を取り上げる報道の仕方や、事件をきっかけに色々な立場の人の意見を聞くことができ、考えることが多くありました。また、自分が出来る範囲で今後どのように行動していくべきなのかを考え続けています。

報道では、障がい当事者の意見を聞かれることが少なく、スタジオに呼ばれる事もほとんどなく、こんなに大きな事件があっても、160人で生活している人の気持ちや希望、全国で入所生活をしている人の想いが前面に聞こえてこない状況は残念だと感じています。

この事件で考えなければならないポイントは、私の中では大きく分けると以下の3点になりました。

① 入所施設のあり方

障がいのある人が集められて暮らしている場は私は不自然だと思えます。私も施設を建て替えるのではなく、今いる利用者にとどのような暮らしをしたいのかをよく聞いて、実現していくためにお金を使うべきだと考えます。事件の翌日に北海道知事が道内の施設の警備体制の強化を指示したり、全国の入所施設で、同じ動きがありました。多くの障がい者を社会から守るといえない方で隔離し、「地域にいると何をするかわからないから怖い」といって閉じ込め、中に住んでいる人が逃げ出さないように鍵をかけて職員が管理していたように思います。160人の利用者を少ない職員が夜間支援しているため、必要な方以外にも眠剤が使われていたのではないのでしょうか。集めて守ってばかりではますます地域で生活するための社会の理解は得られないと思えますし、社会から孤立します。地域で生きるリスクは当然あったとしても、それが生きる中であたりまえで、あたりまえに住んでいて、そこに出てきた生きにくさを応援できる福祉や地域でありたいと思えます。

もちろん、入所施設のような環境が一時的に必要な人もいることは感じています。ただ、本当に長期間そこで生活しなければならないのか、本人の思いは聞かれているのかは確認されていく事が必要であると思えます。

かけがいのない一人ひとりの命や人生は一人ひとりのものだと思います。誰もが全て思い通りになる人生ではありませんが、選択できる機会や成功・失敗する機会はすべての人に平等にあるべきだと思います。

② 障がいのある人への社会での理解の低さ

報道では「けんめいに生きていた」「楽しく生活していた」などと伝えられていましたが、それは利用者の意見を聞いたのだろうか、と疑問に思いました。報道では「19人」という数字だけが残っていて、実名報道がないことにも本当に疑問がありました。家族はな

ぜ実名報道を拒んだのか(しかも全員)、そこに社会の中で障がいのある人がおかれている状況や人権がまだまだ尊重されていないことを感じます。

私は、小さい時から分けられて教育を受け、大きくなっても分けられて生活しているからこそ、社会の理解が進んでいかないのではないかと考えています。もっというと、今でも生まれた時に「残念ながら…」と両親に障がいがあることをつげる産婦人科医がいると聞きます。小さい時から、みんな一緒に育ち、助け合い、人生を選択する機会があり、一般企業にもあたりまえに就職できる社会を作っていきたいと思えます。集められて生活させられているのと同じように、集められて仕事をする場も私は特別な場所だと感じています。通所先まで何歳になっても親が送り迎えしているのは不自然に感じます。そのような場面を見る社会は、障がい者は大変なんだ、いつまでも親が面倒をみなきゃならないんだ、かわいそうに感じてしまうと思えます。「それって変じゃないですか？」とは社会から中々言ってもらえない他人事なのが、特別な場所だからだと思えます。「それって変だ！もう家や施設からでる！」と障がいのある人が未だに中々言えないのも不思議です。

ただ、ゆっくりですが、少しずつ社会も変わってきているとも感じています。

③ 犯人をどう社会で支えるべきであったか

以前、別の事件を起こしてしまった方を支援していた人が、自責の念で大変心を痛めていたことを思い出しました。支援者が多く逆に生きていくのが苦しくなる事も考えられますが、犯人は弱い所を周りに上手に出せず、孤独に生きていたようにも感じ、そういう人は今の社会には沢山いて、そんな社会の他人への関心の低さや排除・孤立しがちな風潮もこの事件の一つの要因だと思えます。

事件についての講演や本を読む中で、犯人は「津久井やまゆり園」で仕事をしていたから、障がいのある人の人生を「かわいそう」に感じたのではないかという話がありました。社会の多くの人が「かわいそう」「こわい」「生きていて楽しいのだろうか」などと考えている事が現実としてあります。親の選択ばかりで自分の決めた人生を歩めない方に出会うと、「かわいそう」と私自身も感じてしまうことがあります。親でさえ、障がいのある子供を殺す時代がありました。今も出生前診断があります。しあわせかどうか、何もできないのかどうかは他人が勝手に決めることではない、どうして勝手に決めつけるのかと障がい当事者が訴えています。犯人と同様な思いを持ってしまう方の多くは、地域であたりまえに生きる障がいのある人に接する機会の少ない人なのだと思います。そして、社会の仕組みと私たちの理解がまだまだ整っていない反省であり、変えていかなければならない所なのだと思います。そのためには、施設にあつめて閉じ込めるのではなく、同じ地域で一緒に生きる事は前提で、繰り返しになりますが、選択や成功、失敗の経験を平等に得られて支えられる仕組み作りが必要なのだと思えます。福祉の現場で働く私たちでさえ、理解不足である点が多々あると思えます。

考えられない、あつてはならない、理解できないと考えているだけではなく、また特異な人の犯行で終わらせてはならず、社会を変えていかなければならないことがいくつもあると考えています。事件はすでに多くの人にとっては他人ごとになっているように感じます。私は、社会の側から障がいのある人や手帳はなくても少しの応援があることで生きていくことが出来る人を応援し、微力ながら理解を深めていけるよう立ち振る舞い、伝えていきたいと考えています。(略)

9、Vさん

同じ福祉現場で働く人間として

何故、障がいがある方が生きてる価値がない、眠っていて抵抗できない状態をおそったのか、理解できず被害にあった方々の辛さ、痛さ、苦しさを想像すると悲しいです。

障がいがある方と接していると学ぶこと、こちらが癒されることがたくさんあります。

容疑者の方はそう思えたことはなかったのか？

強度行動障害のある大規模施設では、職員の負担が多かったのか、閉鎖的な現場だったのか、現場の大変さがそうさせてしまったのか、色々どうしてそうなってしまったのか原因背景を考えることも大切だと思います。

こんな悲しい事件をまた起こさないためにも、原因背景をはっきり解明させ、大規模施設では利用者さんのためにも働く人たちのためにも閉鎖的で良くないと思うので、建て替えてなく、違う形で利用者さん達が安心して過ごせる場所を早く作ってほしいと思います。

10、Wさん

それはなかったことにしたい事件の一つです。

やまゆり園で働いていた人が起こした事件。ではそこで働いていなければ事件は起きなかったのか？

手を貸さないと考えも行動も出来ない人がいる。

その人の意志を尊重しながら手助けするのは、自身も体力、気力の要る事。

事件は狂気の沙汰だがもっと周りの人がその人の異常性に気付けなかったのか、又手助けする側の心の支えは充分だったのか疑問に思う。

特別な人、資格の有る人だけが関わるのではなく、もっと広く一般の人にも障がいのある人に接してもらいたい、理解してもらいたい。

11、Xさん

昨年この事件は本当に大きな衝撃を受けました。

「志」をもって仕事をしていたはずの同じ職員が犯人ということが二重に驚かされました。その後のテレビに出ていた元職員たちのコメントが「自分も同じ気持ちになった事がある」「犯人の気持ちが理解できる」と・・・。

何故なのか！「仕事がきついのか」「仲間とコミュニケーションがとれないのか」「160人も多数が入所する施設が郊外にあることがこの様なことになるのか」考えても大きすぎて理解できません。この仕事をさせてもらって地域にとけ込むことは難しい面があると思うこともあります。でもどんな人も一市民として普通に生きていくことがあたり前のことで、そのためにも私たちがサポートしていくべきだと思います。縁あってこの仕事に就いた私は、微力ながら草の実会の基本を忘れず、日々試行錯誤しながら仕事をさせて頂こうと再認識しました。